

基本的機能の整理に係る検討

消防庁防災情報室

令和3年3月25日

基本的機能の整理に係る検討方針

○消防本部毎の指令業務の違いや、ベンダー毎のシステム設計の違いなどから、消防指令システムの機能や構成は多様。

⇒ システム機能検討の基本に従い、まずは指令業務の大まかな業務フローを整理し、その後に業務の実態に合わせて基本的機能を整理。

現状

消防本部、ベンダーの様々な要因により、消防指令システムの機能や構成が多様化。

消防本部側の要因

- 各本部の規模や地域特性などに合わせた業務フローの最適化
- 従来からの慣例的な業務フローの存在
- 市町村の他部局や医療機関など、他機関との連携方法の多様性
- 仕様の要求機能やシステム構成の違い（カスタマイズ含む）

ベンダー側の要因

- システムや機能の名称の違い
- システムの設計や機能間の連携方法の違い
- ベンダーの得意分野を活かしたシステム開発
- 消防本部の要望に応えたオプション機能や個別開発

検討の流れ

①業務フローの整理

- 指令業務の大まかなフローについて、標準的なモデルを整理（汎用的に活用可能なモデルを目指す）
- 複数のフローを設定する等、各本部の規模や地域特性などの多様性に十分配慮
- 現時点で実現していない外部システムや他機関との連携も視野に入れて検討
- カスタマイズの要因となる特殊な業務についても把握
- 本部毎の差が大きい大規模災害時の業務フローについても、可能な限り検討

②システムに必要な機能の整理

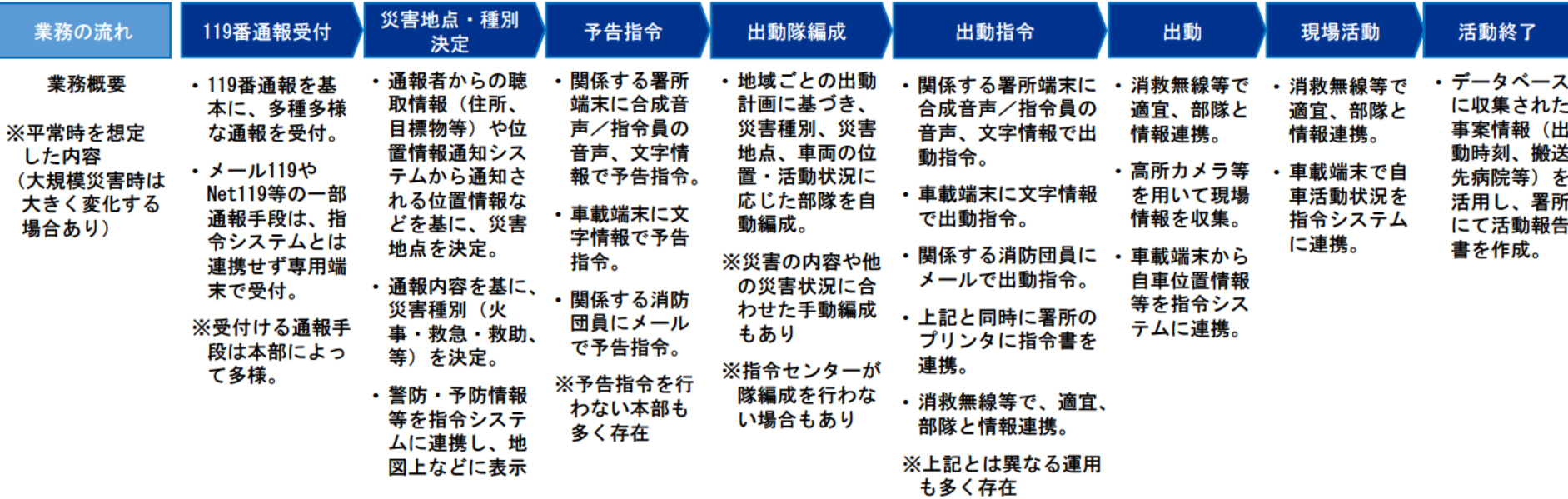
- 指令業務の業務フローの標準的なモデルを踏まえ、システムに求められる機能を整理
- 各機能の名称やシステム内での役割を共通化
- 各ベンダーの創意工夫や新技術取込が可能なだけの自由度を確保
- 個別開発を最少化するため、オプション機能について整理

③消防指令システムの基本的な機能を整理

指令業務の業務フローの全体像（イメージ） ※今後整理

指令業務の業務フロー

※今後の検討を通じてより詳細化を進める予定。



（外部システムとの連携例）

